

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991000015		
法人名	アールケアサービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム香芝(虹ユニット)		
所在地	奈良県かたき市五位堂 一丁目341-1		
自己評価作成日	平成25年1月3日	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiryouvoCd=2991000015-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋作りのホームは、利用者様が自由に行き来されています。フロア間はもちろんバリアフリーでどちらのユニットの職員も見守ることができ、ユニット同士の交流も毎日行われています。体力づくりのために、朝のラジオ体操と夕方のらくらく体操が個々の利用者様の状態に合わせ、職員が参加頂ける様に毎日支援しています。皆様が1番楽しみなお食事は、専任の調理スタッフが管理栄養士の指示の下、手作りで提供しています。両ユニットに畑があり、季節に応じた苗を利用者様と選び植えています。また、ホーム周辺には車で10分以内で、スーパーや病院もあり他にも道の駅やドライブコースもあり四季を楽しむ事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、常に利用者や家族の満足のいくホームでありたいとの方針の下、「普通の生活を当たり前に」送ってもらえるよう利用者の立場に立ったケアの提供に努めています。毎年アンケート結果を踏まえた年度目標を立てており、今年は接遇を取り上げ、職員は100項目に及ぶ自己チェックを行いながら接遇マナを意識し、日々のケアで実践に活かしています。運営推進会議や利用者全員が参加する消防訓練には市の担当者の参加もあり、訓練に関するアドバイスを受けるなど良好な関係を築いています。また、各居室のドアには車椅子や杖などの絵を貼り、外部の方の応援を得る際に役立つよう工夫しています。運営推進会議や家族の面会時には率直な意見が出されており、職員間で検討してケアや改善に活かし、利用者が安心して地域で暮らせる支援に向け取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎朝唱和し、日々共通の認識をもち実践に心掛けています。	法人の理念の基、アンケートの結果を参考にホーム独自の年度目標を掲げ、朝礼時に唱和したり、ふり返しシートを用いて自己チェックを行うと共にカンファレンスで振り返り、理念を共有しています。日々のケアの中で利用者の立場に立った支援となるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1～2回地域のボランティアの方が訪問くださいます。保育園や小学校から、行事で招待して下さったり、ホームへ来てくださる事もあります。近くのスーパーやホームセンターへ買い物にも出かけしています。	紙芝居や演奏会、朗読など地域のボランティアの方々の来訪やクリスマス会は近隣の教会の子供がハンドベルの披露でホームを訪れています。自治会に加入し地域の溝掃除に職員が参加しており、地域との交流を広げていけるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅や病院、その他福祉施設を通じてホームの資料を配布し周知活動を行っています。また、相談・見学はいつでも受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。ホームでの取り組みや行事の内容を報告。ご家族からもご意見頂きサービスに取り入れるよう工夫しています。	会議は年6回、市の職員や家族、利用者の参加を得て開催しています。活動や行事の様子を写真を用いて報告したり、アンケートの集計結果や改善に向けた取り組み内容などについて話し合っています。また家族からの提案を受け、和室の活用について検討するなど、有意義な会議となっています。	運営推進会議は地域からの参加が得られていない状況です。地域の方の参加が得られる働きかけを行い、地域の方にホームへの理解と支援を得る機会とされてはいかかでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは日頃から密に連絡を取っています。事業所の事情やケアサービスについても相談・報告を行い協力関係が構築できているよう取り組んでいる。	運営推進会議やホームの消防訓練には市担当者の参加があり、日頃から相談を行ったり、ホームの現状を伝え、困難事例の対応についてアドバイスをもらうなど、良好な協力関係を築いています。運営推進会議の議事録は担当者に届けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しているが、玄関の施錠は行っている。	年1回の研修と入職時研修で身体拘束について学ぶ機会を持ち、周知するようにしています。利用者の行動を言葉で制止したり、職員の都合で待ってもらう時はその理由を説明し、言葉による拘束にも注意しています。玄関は施錠していますが外出したい様子の時は職員と出かけ、利用者の自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について研修を行い、虐待防止に努めている。		

愛の家グループホー香芝(虹ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に必要性がある場合には、関係者と話し合い活用できるようつなぎ支援できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得が得られるよう努めている。改定や解約の場合は、再度説明の機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご意見が伺えるよう、ポストの設置や本社・社外への相談窓口のご案内も設けている。また、ご要望・ご意見を運営に反映出来るよう努めている。	面会時や電話で利用者の様子を伝えながら意見や要望を聞いたり、本社でアンケートを実施し、意見や要望を伝える機会を設け、結果を玄関に貼り開示しています。出された意見は職員で検討し、共通のサービスが提供できるよう掃除の仕方をマニュアル化するなど、サービスの向上に反映しています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンスの他、日常の中でも職員の意見・提案が活かせるよう反映させている。 全職員から声が出せることが課題である。	リーダーはユニット毎の会議やカンファレンスで意見を言い易いよう気を配りながら、職員からの意見を聞いています。業務分担についての意見が多く出され、出された意見は職員間で話し合い、改善された内容は議事録で共有しています。また職員の様子を見ながら随時個別に意見を聞く事もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に尽力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の実施や個々のケアの質・能力については、引き続き指導・訓練が必要である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所内の相互訪問や勉強会は実施出来ている。他同業者との交流は今後の課題である。		

愛の家グループホー香芝(虹ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の様子から個々の状態を全職員で情報共有するよう努力している。安心いただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何に困り、何を願っておられるか出来る限り聞き取り、実現出来る様計画し実行している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の現状を全関係者が把握し、日常生活自立に向け対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、社会性・協調性・個人を重視し利用者様同士の生活を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支える立場として、またご家族との絆を実感いただける機会を作る工夫を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力いただきながら、個人の馴染みの人・物・場所を大切に出来る時間を支援しています。	友人や幼馴染みの訪問時には、過ごしてもらいやすいよう場所を提供したり、雰囲気作りに配慮しています。自宅の郵便物が気になる方と一緒に取りに行ったり、年賀状を書かれる方の宛名書きなどを支援して一緒に出しに行くなど、馴染みの場所や人との関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し支援できている方もいますが、孤立され利用者様同士の関わりに様々な検討と支援が必要な場面も多くあります。		

愛の家グループホーム香芝(虹ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを第一に考え、ご本人に伺い時にはご本人の立場で検討するよう心掛けている。	ホームでの暮らし方の希望や趣味、嗜好などこれまでの生活歴を利用者や家族から聞き、思いや意向の把握に繋げています。日々の関わりで得た職員の気づきや情報は介護記録に追記しながら申し送りなどで共有しています。半年毎に再アセスメントを行い、利用者の思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、御家族にも情報提供の協力頂き把握に努めている。ご本人にも伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、日々の関わりの中で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者会議やモニタリングを行い、プランに活かしている。	利用者や家族の思いを基に、カンファレンスを開き職員の意見を聞いて介護計画を作成しています。担当職員が、3ヶ月毎にモニタリングを行い、それを基にサービス担当者会議を開き計画を見直しています。医師の往診の記録や看護師の意見も反映させています。日々の介護記録は計画に沿って分かり易く工夫し、実施状況を把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を記入し、情報共有すると共にケアに活かせるようカンファレンスなどで意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況・ニーズに合わせ、出来る限りの相談を受け、対応している。		

愛の家グループホーム香芝(虹ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	共同生活にあっても、相互の社会性と地域の資源を活用しながら、豊かな暮らしが出来るよう個々に支援するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な場合には、事前に状況の説明と相談を行った上で、出来る限りご本人・ご家族の希望に添うよう医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医への受診は家族が対応し、かかりつけ医によっては往診にも来られています。協力医による往診は2週間毎と歯科は必要時に医院の送迎で職員が付き添っています。他の専門医への受診は家族や職員が随時対応しています。緊急時は24時間、協力医と連絡がとれる体制が整い、看護師との連携も図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、看護師が個々に身体状況を確認し介護スタッフとの情報共有・把握に努めると共に、指導に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、治療方針や状況を確認し早期退院に向け、関係者各位との連携と情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、状況を伝えると共に事業所で担えること出来ない事を説明した上で、地域福祉・ご家族様と協力しながら支援に努めている。	入居時に看取り指針を基に説明し、ホームで対応できる内容を伝えていきます。状態に変化があれば医師が状況を説明し、利用者や家族の思いを再度確認しています。研修やカンファレンスを実施して職員の不安の解消に努めながら、家族の協力と医師や看護師、職員が連携し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が初期対応の訓練を行っている。実践的に対応出来るよう、マニュアルの理解・定期的な訓練は続ける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路については、職員に周知できている。 地域との協力体制については、合同で災害に対しての訓練を検討している。	年2回消防署の協力の下、昼夜を想定した避難訓練を行い、水消火器訓練や利用者の状態に合わせた避難方法の訓練をしています。市の職員が立ち会う際には意見をもらい、次回の訓練に活かせるよう職員と話し合っています。運営推進会議で参加の呼びかけや報告をしています。	

愛の家グループホーム香芝(虹ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーに配慮した言葉かけを心掛けている。	年1回法人の接遇研修に参加し、研修報告書を回覧したり、入職時はプライバシーや言葉遣いについて個別指導を行っています。日常的には敬語を使い、トイレの声掛けなどは羞恥心に配慮し、利用者の自尊心を大切にしたいケアを心がけています。不適切な対応があればその場で注意したり、場合によっては個別に指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、出来る限りの選択肢や希望を伺えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか、希望を引き出す事が課題であり、一人ひとりのペースは尊重し支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時には配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食 皆様楽しみに召上っている。食事の準備に関わる、力を活かすについては一部の方しか担えていない。	法人が立てる献立に利用者の好みを反映させ、食材は発注したり、利用者と買い物に出かけています。利用者は食器洗いや下膳、材料を切るなどできる事に携わってもらっています。誕生日食や敬老会、節分などの行事食と一緒に作ったり、外食や畑の収穫物が食卓に上がることもあります。職員も一緒に同じものを食べ、食事が楽しみとなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や看護師も交えながら、御家族にも相談し、スタッフ間で日々観察しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを支援している。		

愛の家グループホーム香芝(虹ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援できている。	個々の排泄状況や排泄のパターンを把握し、トイレで排泄出来るよう支援しています。ポータブルトイレでの排泄習慣がある利用者にトイレへの声かけや誘導を行うことで身体状況が向上し、トイレで排泄習慣が身に付くなど、改善に繋がっています。紙パンツを減らすよう取り組んでおり、布の下着に変更になり皮膚の状況が改善されている方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医・看護師に相談しながら、食品・飲料で個々に合わせ工夫し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのその日の状況に合わせてながら、週に2～3回のペースで入浴を支援している。	日中の時間帯で入浴の希望を聞き、一人ひとり湯を入れ換え週2～3回のペースで入浴してもらっています。希望を聞いて温泉の素を入れたり、好みのシャンプーやボディソープを使う方、また一人で入浴を楽しみたい方は浴室の外で見守りを行うなど、その方に合った入浴が楽しめる工夫をしています。拒否される時は声かけやタイミングを変えるなど工夫しながら対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、休息・安眠が保てるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報や主治医へ確認しながら、服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々の役割やレクリエーションの中で気分転換が図れるよう支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に添うまではできていない。ただ、ご家族に相談しながら地域も頼り、個別の外出が出来るよう支援を目指している。	天気の良い日は車椅子の方も一緒に近隣を散歩しています。個別の希望を聞いて喫茶店に行ったり、ドライブなどに出かけています。春は公園での花見や秋の紅葉、初詣や道の駅に出かけるなど、戸外へ出れるよう支援に努めています。広い駐車場や庭で気分転換や外気浴などを行っています。	

愛の家グループホーム香芝(虹ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いの機会を作ったり、お金を持ち自分で選択する事の楽しみも大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方にはしか支援できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、混乱を招かないよう状況に応じて環境を整えている。生活の中で五感を大切に心地良い空間で過ごせるよう工夫を心掛けている。	穏やかな雰囲気のあるホーム内は、和室やリビングのソファやテーブル、また廊下の空間を活かし一人になれるスペースを設けるなど、思い思いに過ごせるよう配慮しています。利用者で作った畑には花や野菜が育てられ、季節や生活感に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人が居場所を選択し、自由に動ける空間を提供できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部の居室については、改善や検討が必要な部分もあるが、馴染みのあるご本人の好みに配慮している。	筆筒とエアコンは備え付けてあり、好みに畳みや絨毯を使用してもらっています。入居前のアセスメント時に自宅の間取りの写真を撮り、ベットやドアの位置の確認を行ないながら、持ち込まれた仏壇や机、椅子などは自宅に近い環境になるように配慮しています。家族の写真を飾り、趣味の陶芸の作品を飾るなど見慣れた物や馴染みの品々に囲まれたその人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が支援できるには、まだまだ工夫が必要である。		